

初田 幸隆 先生に対してのご質問をご記入ください。

<質問>

教育講演ありがとうございます。今後の学生教育に役立てて参りたいと思います。
このオンライン配信の講義が途中で学生にどのようにcoachingをしていけば良いでしょうか。工夫があればご教授頂ければ幸いです。
よろしくお願い申し上げます。

<回答>

ご質問ありがとうございます。オンライン授業と言いつても、当講座のようなオンデマンドによる講義から、ズームやグーグルミーティングなど、双方向にやり取りができるものまで様々です。基本的にコーチングは対一で有効に使える手法かと思っておりますので、ズームや電話でのやり取りでもおなじことです。コーチを生業にされている方も、週に一度くらいの割合でスーパーバイザーに電話でコーチを受けるなど、自らもコーチングが高まろうとされる方が多いです。オンラインでの授業は学生の孤立化が進みやすく、コーチングで伸ばすことと同時に、学生同士をつなぐことにズーム等の活用が有効ではないでしょうか。

<質問>

貴重なお話ありがとうございました。自己肯定感が低い学生のことについては、参考になるお話がたくさんありました。一方、自己肯定感が高い学生について伺いたいと思っておりました。自己肯定感が高いのは、良いことだと思いますが、自己肯定感が高すぎる場合はどのように指導したら良いのか困っております。実習先でも患者さんに対して指導者側がヒヤリとするようなことを行いますが、自分は問題なくできていると思っています。指導をして本人から言葉では改善点の回答がありますが、同じ間違いを何度も繰り返します。このような学生に対する指導について、どのように展開していったら良いかということをご助言いただけますと幸いです。

<回答>

自己肯定感や自尊感情が高いがゆえに指導がむづかしい学生、確かにこのような学生の指導に手を焼くことがありますよね。このような学生はメタ認知が苦手である場合が多いと思います。低い評価をしたときに、その根拠を聞きに来たりするものこのタイプの学生に多くみられます。
この様な学生も、評価の観点と基準を事前に明確に示し、その基準に基づいて評価していることを説明すれば納得する場面が多いと思います。このように考えると、様々な場面で達成目標を明示し、行為の後、自己評価をさせ、評価規準・基準のもと行った評価との差(おそらく自分の評価の方がかなり高い)を示して、自分の評価そのものに問題があるということに気付かせていくことが大切ではないかと思っております。働きだしたときにこのような差があればどのような問題に発展するのかわかることも有効です。
いずれにしても最も手こずる学生ですね。

<質問>

大変わかりやすいご講演をありがとうございました。拝聴してうなずける内容ばかりでした。
教育の経験値も増えてくると、この学生は視能訓練士にはならない方がいいな、と感じることも少なからずありますが、本人にそれを伝えることはありません。先生のご経験の中で教師を目指している学生で、教師にならない方がいいと感じになったことがありますか。またその学生が強く教職を希望していた場合にどのように対応されておりましたか。

<回答>

ゼミ生の中で、何人か進路変更した院生がいます。問題は本人が困りを感じているかどうかです。その仕事に向いていないということは、実習やロールプレイの中で困りを感じているものです。その困りに対して、困りに向き合う姿勢を評価しつつも、この仕事を続ければ、同じような場面は日常的にあるということに気づかせ、日々、困りを感じながら続ける仕事を選ぶことが自分にとっては不幸ではないか、と考えだすように仕向けて行けば自ら進路を変更します。高校の教員志望でしたが、ADHD傾向が強く、むしろ研究者向きではないかとアドバイスしました。
問題は、自分は困りを感じずに、児童生徒、視能訓練士では患者や周りの人間が困りを感じるという場合です。このような学生はメタ認知力が弱いため、相手や周囲の困りにさえ気づいていないことがあります。指導者が問題点を指摘しても指導者を悪者にして、自分を正当化することでその問題から逃げてしまいます。
私の場合、学生が教員には不向きであると考えられる行為をしたときに、どのような問題に発展するかを具体的に話しています。例えば、教室に忘れ物をしたり、提出物を期限までに出さなかったりした場合、もし、その忘れ物が児童生徒の個人情報だったら懲戒処分になる、とか、提出物が教育委員会に提出するレポートだったら始末書を書いて提出しなければならないなどの話をしますし、こちらの指示を間違えて理解した場合など、子どもや保護者の発する言葉を間違えて理解した結果、訴訟問題に発展した例などを話します。あくまでも、相手の学生を大切にしたいという思いに裏付けられていないとうまくいかないとします。

教育講演に対してのご感想をご記入ください。

今年度も教員研修会開催され嬉しく思います。来年度以降もよろしくお願い申し上げます。

指導法についてわかりやすく順序立てて説明していただきありがとうございます。

講演後の質問にたいするご回答の中で、大学生には、自分の良さに気づくということが必要なのでは、というようなお話がありました。本当にそう思います。お伺いした内容を参考に、一人ひとりの学生に対し、良さに気づけるようなコーチングができれば、と思いました。

教員の育成をする人材の育成が課題だと考えています。職能教育に多くの時間を取られ、中々「人材育成」までのゆとりがないのが現状。

細かい指導スキルまでお示しいただき、大変参考になりました。できれば臨床実習指導者にも聞いてほしい内容でした。

ティーチングとコーチングの違いについてのお話が印象深かった。

さっそく今後の学生指導に生かしていきたい。